

大滝ダム運用環境調査委員会

第4回委員会 議事要旨

開催日時：平成19年4月18日（水）14：00～16：00

開催場所：KKR ホテル大阪（大阪府中央区馬場町2番24号）

出席者：

- 委員長 田中 哲夫（兵庫県立大学 准教授）
- 委員 井伊 博行（和歌山大学 システム工学部 教授）
- 委員 竹門 康弘（京都大学 防災研究所 准教授）
- 委員 矢田 敏晃（元大阪府立淡水魚試験場 場長）

1. 議事について

昨年度の委員会で決定した調査計画に基づき実施した調査結果のうち、昨年度未報告の内容について報告がなされた。

また、昨年度の委員会での審議内容に基づいた今年度調査計画について説明がなされた。

2. 審議内容

昨年度調査結果の分析方法、今後の調査計画について、課題があげられた。

(1) 昨年度調査結果の分析上の課題

- ・河床材料については、平成14年度調査結果と比較が可能。
- ・底生動物をはじめとした水生生物の調査結果について、得られたデータの分析を行う必要がある。
- ・水生生物の歴史的な変化は、河川環境の変化と照らし合わせた解析を行ってほしい。
- ・得られたデータについての分析と解釈の作業を、委員と事務局が協力して徐々に進めていく必要がある。

(2) 今年度調査計画上の課題

- ・各流程別の流況を把握するために、流量配分図を作成することが重要。
- ・アユへの影響を把握するためには、履歴（由来）を可能な限り把握する。
- ・出水時の濁り成分を把握するために、灼熱（強熱）減量を計ることを提案したい。
- ・津風呂ダムの流量データが必要であり、また可能であれば、調査地点の追加を検討する。
- ・ダム堆砂状況調査の堆積厚の推測のための水深計測は、複数点計測し、データの精度を上げる。

3. 今後の予定

次回は12月を予定。

今年度の調査結果の中間報告を行う。